

特集2

ワンクリック請求の手口

独立行政法人 情報処理推進機構 技術本部 セキュリティセンター

ワンクリック請求とは、インターネットを悪用した不当な料金請求の一種です。例えば、アダルトサイトで無料の動画を見ようと画像をクリックして、記載事項をよく読まずに次へ次へと進んで行った利用者に対し、ウェブサイト運営者が利用者の意思に反して「会員登録」を行い、料金を請求する手口です。このような請求に対して、慌てて相手にメールや電話で連絡したり、お金を支払ったりしないことが肝要です。

ワンクリック請求の被害が減らない原因として、パソコンやスマートフォン(以下、スマホ)の普及によるインターネット利用者の増加や、ワンクリック請求を行うウェブサイトが増えていること、またそのようなウェブサイトへ利用者を誘導する手口が巧妙になっていることなどが挙げられます。

被害にあわないためには、ワンクリック請求の手口を知ることが第一です。例えば、契約する意思がないのに、意思確認画面で「はい」をクリックしないようにするなど、ウェブサイト閲覧時には、画面に記載されている注意事項をよく読み、無用なトラブルに巻き込まれないように判断しなければなりません。今回はワンクリック請求の手口について紹介します*。

請求画面を表示させるまでの誘導の手口

パソコン利用時にワンクリック請求の請求画面を表示させるまでの誘導の手口を紹介します。

(1) ワンクリック請求を行うウェブサイトへの誘導

アダルトサイトなどで無料動画を再生するた

めに複数のウェブサイトを転々とさせられて、最終的にワンクリック請求を行うウェブサイトへ誘導されます。このとき、最終的にたどり着いたウェブサイトでは、「無料」の文字はなくなっています。利用者はこのようにして、「無料」をうたったページから「有料」サイトへと、巧みに誘導されます。また、複数のウェブサイトを経由させられることにより、利用者は焦燥感が高まり、注意力が散漫になるものと思われます。

(2) 利用規約への同意画面

最終的にたどり着いたワンクリック請求のウェブサイトには、「20歳以上である」といった文言とともに、「利用規約に同意して先に進む」と書かれたチェックボックスがあります(写真1)。これらの表示をよく確認せず、クリックしてチェックマークを入れて、「はい」ボタンをクリックすると、次の画面へ移動します。チェックマークを入れないと先に進めません。

ここで例として挙げているウェブサイトの場合、「はい」ボタンの下に利用規約があり、有料

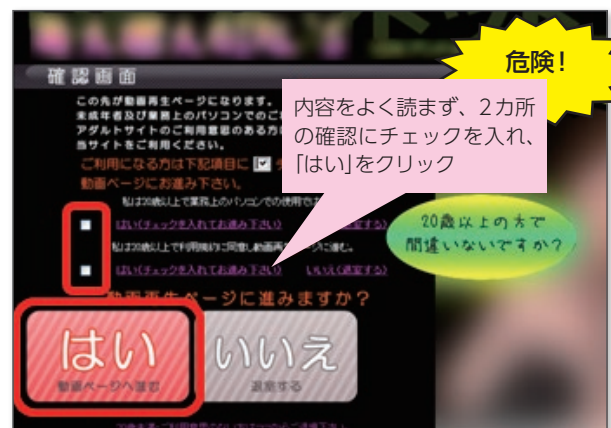


写真1 利用規約への同意画面

* 独立行政法人 情報処理推進機構 情報セキュリティ対策
<http://www.ipa.go.jp/security/topics/alert20080909.html#chap3>

であることが書かれています(写真2)。画面をスクロールさせないと見えない位置に書かれていたり、読みにくい色や大きさの文字が使われている場合があり、注意が必要です。

(3) 動画再生画面

利用規約や同意画面を経て、動画再生の画面へたどり着きます。動画再生ボタンと思われる部分をクリックすると、さらに画面が切り替わり「実行」ボタンを押すよう促すメッセージが表示され、それと同時に請求画面を表示するプログラムをダウンロードしています(写真3)。

ここで注意が必要なのが、表示されている「実行」ボタンはウェブサイト画面内のボタンではないということです。この「実行」ボタンをクリックすると、ウェブサイト画面内で動画再生が始まるのではなく、パソコン上で請求画面を表示するプログラムが動いてしまうのです。ただし、実際にこの「実行」ボタンをクリックすると、すぐにプログラムが実行されてしまうわけではなく、ウィンドウズが警告(信頼できないソフトウェアを実行しようとしている)を表示してくれます(写真4)。ここで踏みとどまり、「キャンセル」をクリックすることができれば、請求画面は表示されません。

この警告画面は「発行元を確認できませんでした。このソフトウェアを実行しますか?」と表示されています。これは、インターネットから、動画などではなくソフトウェアがダウンロードされており、危険を及ぼす可能性があるということを意味しています。この警告にかか

わらず、ウェブサイト画面内の「はい」や「実行」などのボタンやウィンドウズが表示する同様のボタンをクリックするという行為は、なにかしらの規約に同意したり、なにかしらのプログラムを実行するという意味をもっていることがほとんどです。「はい」や「実行」などのボタンをクリックするときには、表示されている内容をよく理解し、自分が何を実行しようとしているのかを把握することが肝要です。

ワンクリック請求の事例(症状)

次に、ワンクリック請求の請求画面が表示されるに至ってしまった場合に多く見られる症状を紹介します。

(1) パソコンに請求画面が表示され、消せない症状

パソコン利用時におけるワンクリック請求の

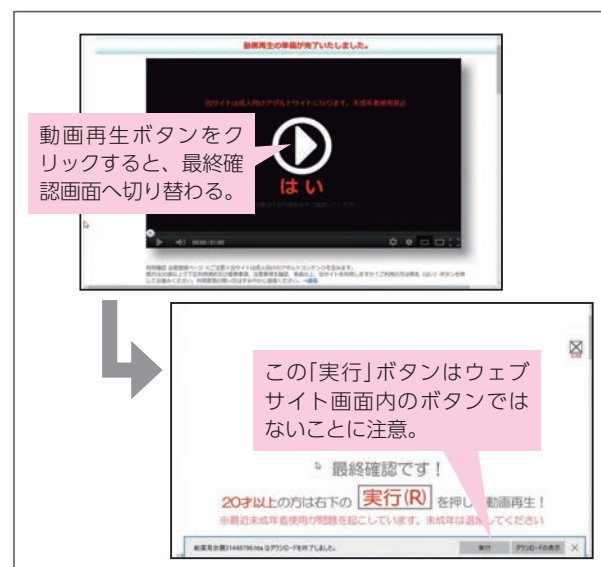


写真3 実行ボタンを押すように促すメッセージ画面

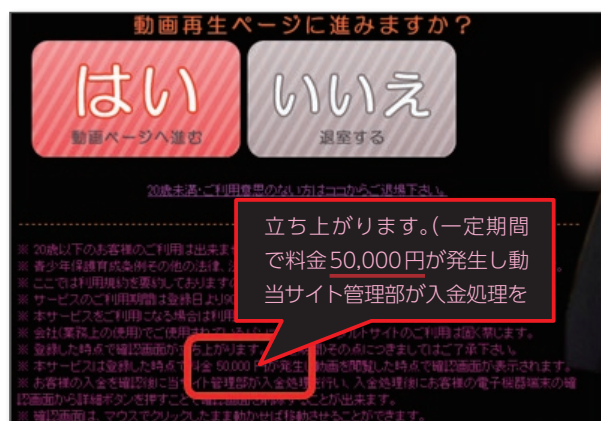


写真2 分かりにくい有料の表示

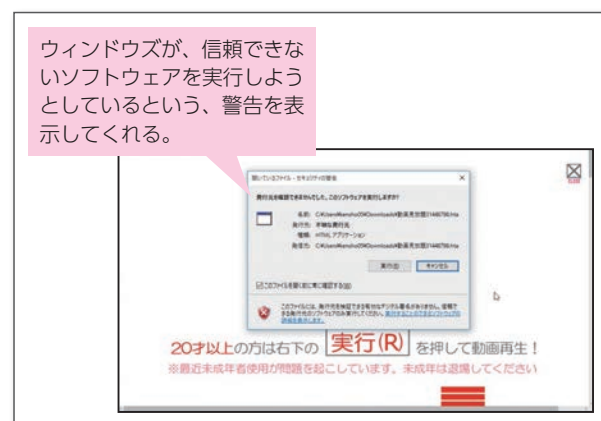


写真4 ウィンドウズの警告画面

基本的な症状です。多くの場合、請求画面が消せなくなったのではなく、消しても一定時間経過すると再び請求画面が表示されます。こういった事象は、パソコン内で請求画面を繰り返し表示する不正なプログラムを実行してしまったことが原因です。このような不正プログラムは先にご紹介したとおり、勝手にパソコンにインストールされるのではなく、利用者自身がパソコンにインストールしてしまっているのです。不正なプログラムをインストールする際には、パソコンがセキュリティの警告を表示します(写真4)。このような警告を動画再生のための承認であると勘違いせず、踏みとどまることが肝要です。

なお、表示された請求画面内に、利用者の情報として以下のような情報が記載されている場合があります。

- 利用しているパソコンやスマホのOS情報
 - 利用しているブラウザの情報
 - 利用しているパソコンやスマホのIPアドレス
- など、これらの情報が表示されることで、利用者は自分の個人情報がウェブサイト運営者に知られてしまったと勘違いし、慌てて連絡してしまう人がいるようです。これらの情報は、ウェブサイトを開覧した場合にはウェブサイト側に伝わるしくみになっているものです。これらの情報から利用者個人を特定できるものではありません。個人情報を入力したと勘違いさせる脅しの手口といえます。

(2) スマホにおけるワンクリック請求の症状

スマホ利用時におけるワンクリック請求の基本的なパターンです。

①請求画面が消せなくなり、仮にスマホを再起動してインターネットを見ようとしても再び請求画面が表示されます。スマホにおける請求画面の表示はパソコンとは状況が異なり、スマホに不正なプログラムが入ってしまったわけではありません。表示されている請求画面はウェブサイトの画面であり、スマホはそのウェブサイトの画面を表示しているに過ぎ

ません。スマホを再起動しても請求画面が表示されるという場合は、スマホで利用しているブラウザ(ウェブサイトを開覧するためのアプリ)が、その請求画面を記憶していて再度表示しているものです。ブラウザでウェブサイトの閲覧履歴を消去すれば、請求画面を消すことができます。

②スマホにおけるワンクリック請求の新たな手口として、請求画面の表示に合わせてカメラのシャッター音を鳴らすという事例がありました。シャッター音を鳴らすことで、利用者に自分の写真が撮影、送信されたと誤認させ、慌ててメールや電話で連絡を取らせる意図があると考えられます。ブラウザによるウェブサイト閲覧だけではスマホのカメラ機能を制御したり、撮影した写真をネットワーク経由で送信したりすることはできません。請求画面への利用者情報の表示と同様、不安をおおる手口の1つといえます。



まとめ

ワンクリック請求の基本的な手口は、利用者に心理的な不安や焦燥感を与えることでメールや電話をさせ、結果的にメールアドレスや電話番号を知り、さらに利用者を不安に陥れてお金を振り込ませようとするものです。そのため、請求画面が表示されても慌ててウェブサイト運営者に連絡をしたりお金を振り込んだりしないように注意してください。

今回紹介したワンクリック請求の手口はあくまで一例です。今後も手口がより巧妙になることや、新しい手口が登場する可能性が考えられます。ワンクリック請求のみに限ったことなく、パソコンやスマホ利用時に「はい」や「実行」などのボタンをクリックするときは、表示されている内容をよく理解し、自分が何に同意しようとしているのか、何を実行しようとしているのかを把握することが重要です。また、メッセージの内容が分からない場合は不用意に先に進まないことが肝要です。